

不安・ストレスを対象とした 文献研究の分析



和光大学 現代人間学部
心理教育学科 3年

王芸蒙 吳明月 湯本訓明

目次

- 1.研究背景
- 2.研究の目的と意義
- 3.研究方法
- 4.結果
- 5.考察
- 6.おわりに
- 7.参考文献



研究背景①—不安とは—

- **不安** → 現実あるいは想像からくる威嚇、何となく容易でないという感じ、あるいは極度の不安感に対する反応である。
- 精神医学において不安とは、漠然として対象がない恐れ的感情であり、それには必ず自律神経系の過活動を伴う。

例： 心臓がドキドキしたり、息が苦しくなったり、手足が震えたりする感じである。

研究背景②ーストレスとはー

- **ストレス** → 身体的、精神的、あるいは、情緒的な負荷あるいは緊張を言う。
- ストレスという用語は、もともと物理学の分野で使われていたもので、物体の外側からかけられた圧力によって歪みが生じた状態を言う。
- 医学や心理学の領域では、こころや体にかかる外部からの刺激をストレッサーと言い、ストレッサーに適応しようとして、こころや体に生じたさまざまな反応をストレス反応と言う。

研究背景③

—不安とストレスの関係—

- 不安の発生リスクは、ストレスとか、家族歴に神経症があるとか、過度の疲労とか労働、あるいは以前にストレスを感じたり、危険に会った状況が再び出現した場合などに増加する。
- 以上を踏まえ、不安とストレスの関係性にある特徴を調べ分析することで、これらの研究でどのようなものがあるのかをジャンルごとに分けて捉えることで、研究全体の流れを掴み、理解を深めるアプローチをする。

研究背景④—現状—

- 現在、不安やストレスについて取り扱っている研究や調査は多くある。

①ストレスの調査は平成22年度の厚生労働省による国民生活基礎調査が代表的なものとして挙げられる。

(図1-1, 1-2参照)

②不安についての調査で代表的なものは、平成19年度の総務省の情報通信白書で行われた調査が挙げられる。

(図2参照)

・図1-1 性・年齢階級別にみた主な悩みやストレスの原因(複数回答)の割合(12歳以上)

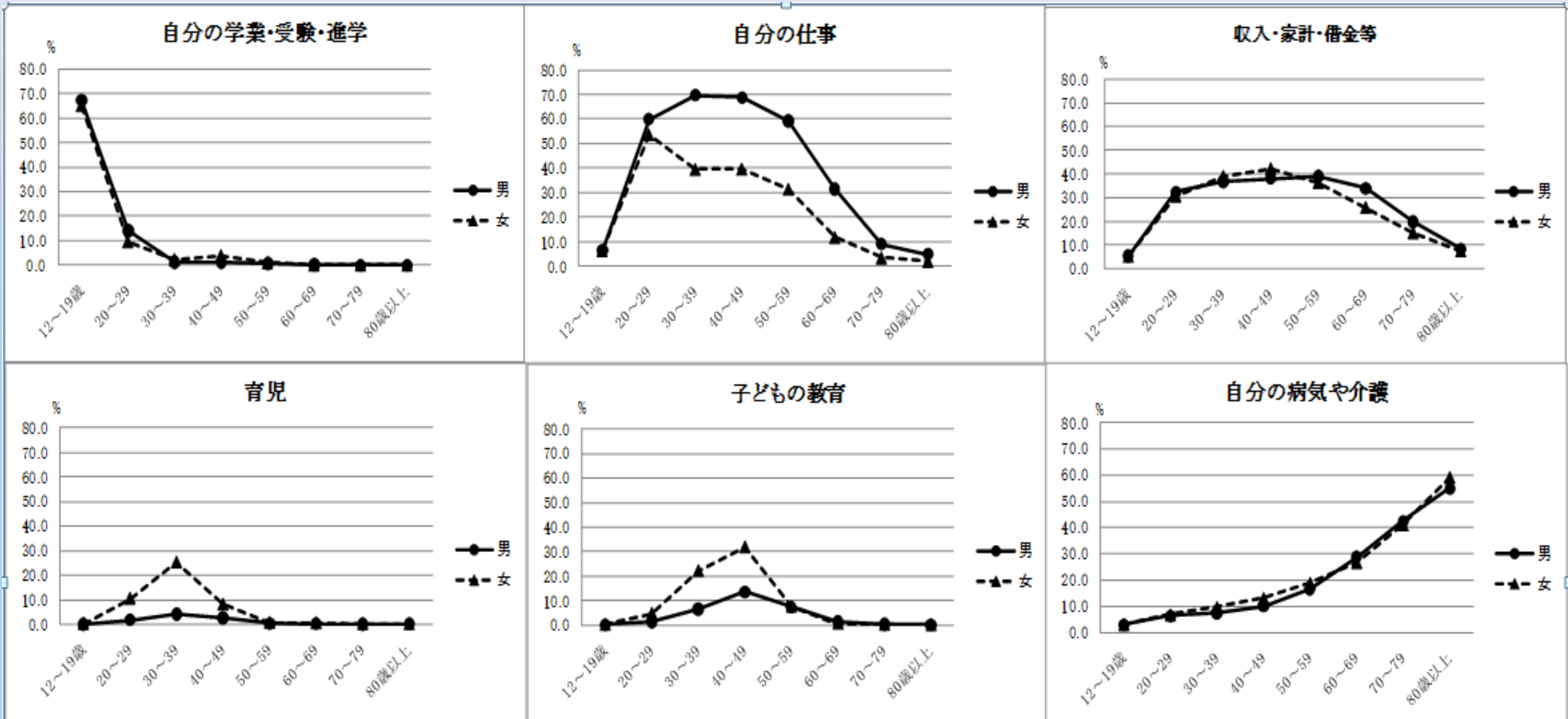
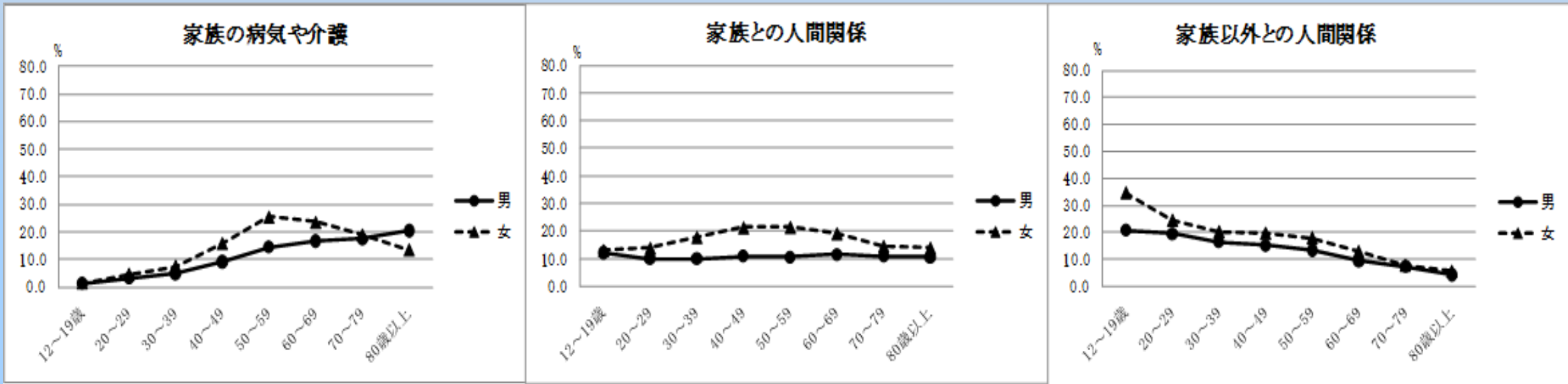


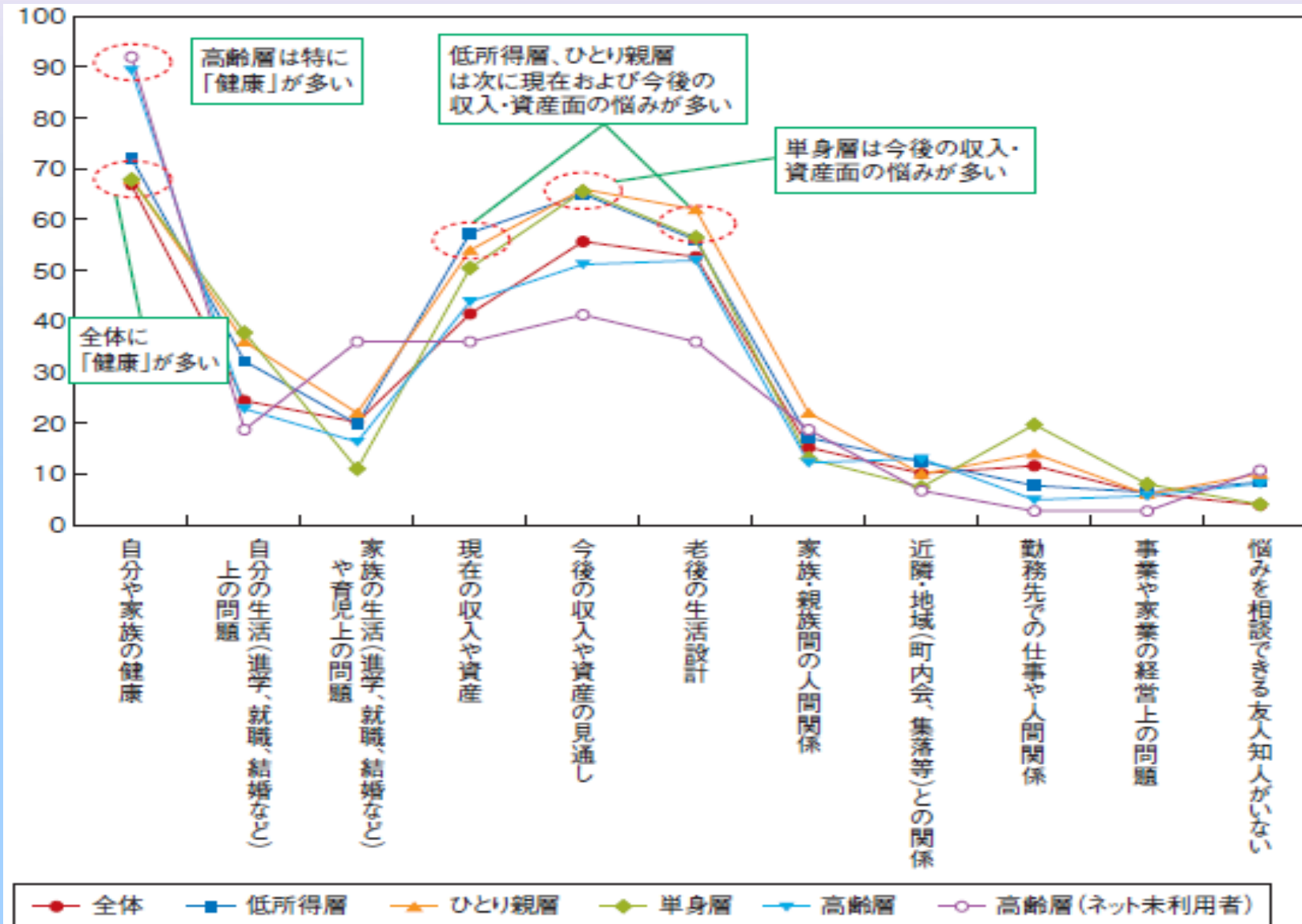
図1-2 性・年齢階級別にみた主な悩みやストレスの原因 (複数回答)の割合(12歳以上)



注:1)入院者は含まない。

2)主な悩みやストレスの原因については、性・年齢階級別の上位3位を抜粋

図2 生活上で悩みや不安を感じること



研究の目的①

- そこで、医中誌webにある不安とストレスを取り扱った研究論文から、これらストレスの原因に共通的なものはあるのか、またどのようなキーワードが用いられ研究されているのかを調べ分析した。

研究の目的②

- 医中誌webにおいて、2012年までの不安とストレスの関係に焦点を当てた研究の動向を明らかにしていく。

研究方法①

- 不安とストレスを扱う論文に関して医中誌データベースによる1982年から2012年までの30年間に発表された論文の書誌データ(=題目)をテキストマイニングソフトText Mining StudioVer 4.1により分析する。

研究方法②

- 医中誌とは「医学中央雑誌」の略で、日本国内発行の医学、薬学、歯学及び心理学などの関連分野や大学の紀要、研究報告など、定期刊物、約5,000誌から収録した約750万件文献を収録した医学文献データベースである。

研究方法③

- 医中誌webの検索機能で1982年～2012年の間の研究論文を対象として、
 - ★ 不安＋ストレスの条件式で検索し、論文題目を分析して行く。

結果 目次

- 図3-1 単語頻度解析による上位30語抽出
- 図3-2 上位5単語の年度別推移
- 図3-3 上位5係り受けの年度別推移
- 図3-4 話題分析の文章分類
- 図3-5 対応バブル分析
- 図3-6 ことばネットワーク

図3-1 単語頻度解析による上位30語抽出

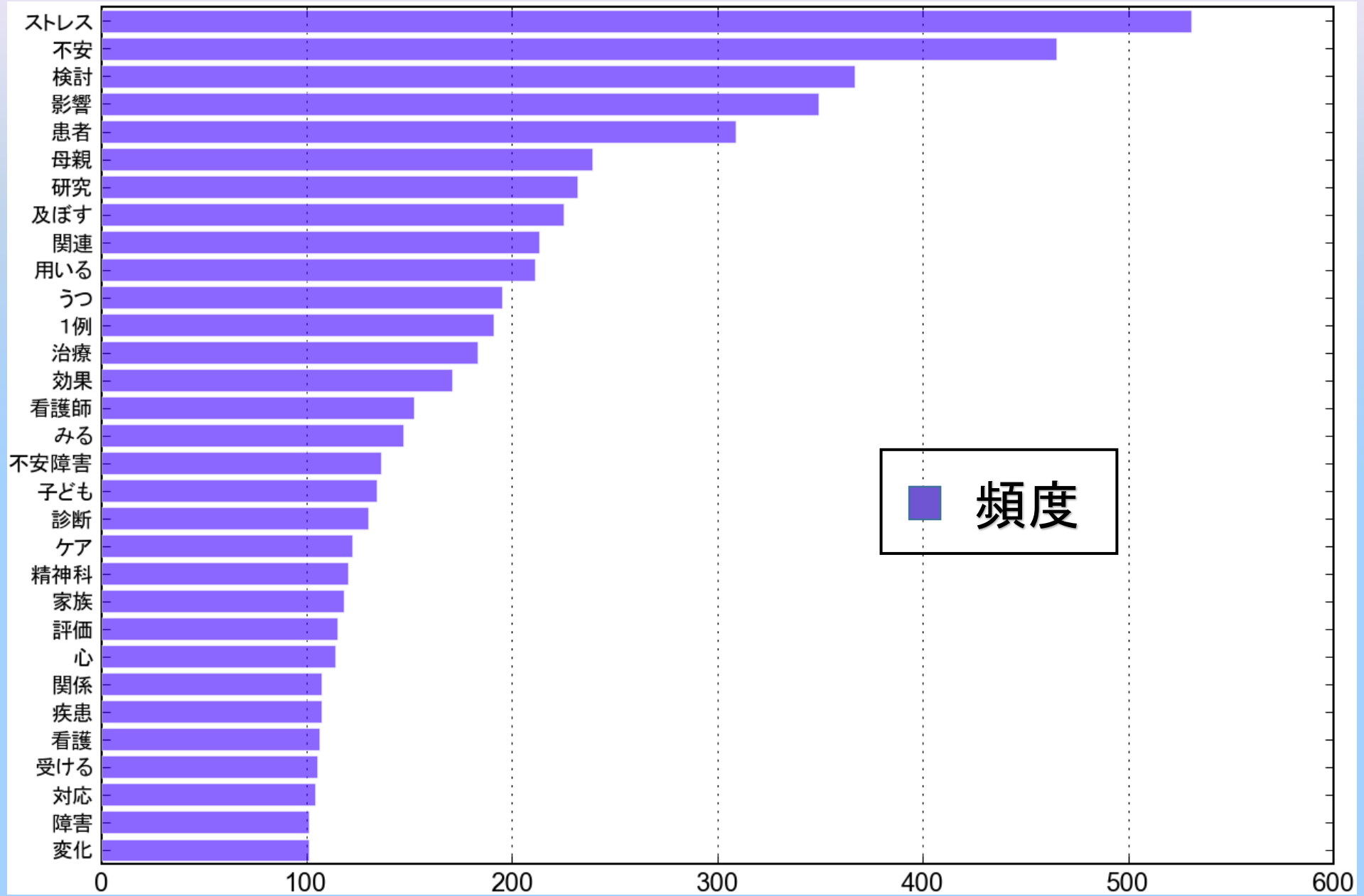


図3-1 単語頻度解析 結果

- 単語頻度解析で抽出条件を「上位30件」として検索した。
- 単語頻度解析では、論文抽出に関する検索式において「ストレス・不安」としている関係もあり「ストレス」を対象としているものが531件であり、「不安」465件、「患者」309件の次に「母親」239件、「効果」171件、「看護師」152件、「精神科」120件、「家族」118件、「疾患」107件、「障害」101件が関係していることがわかる。

図3-2 上位5単語の年度別推移

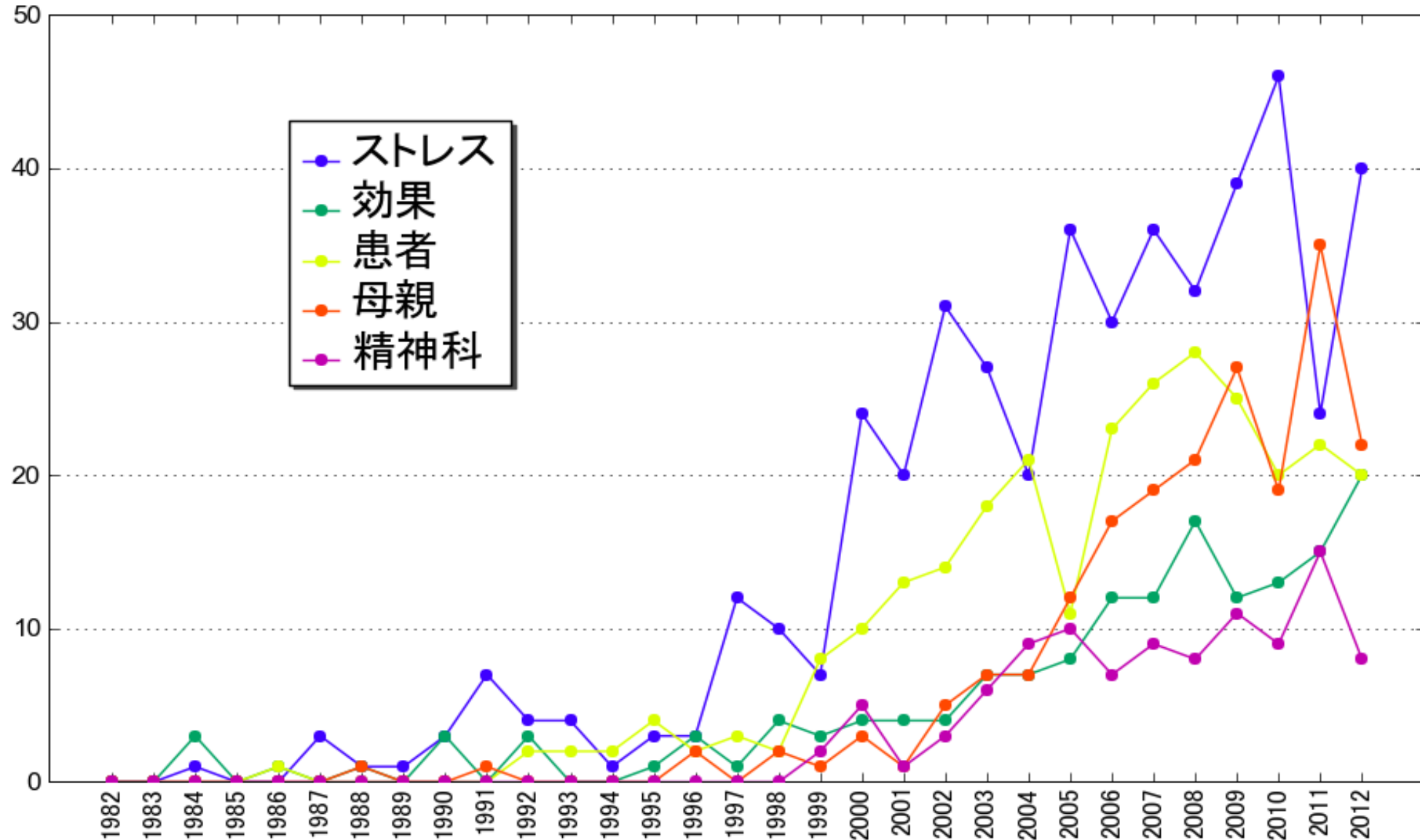


図3-2 上位5単語の年度別推移解析結果

- 上位5単語の年度別解析:

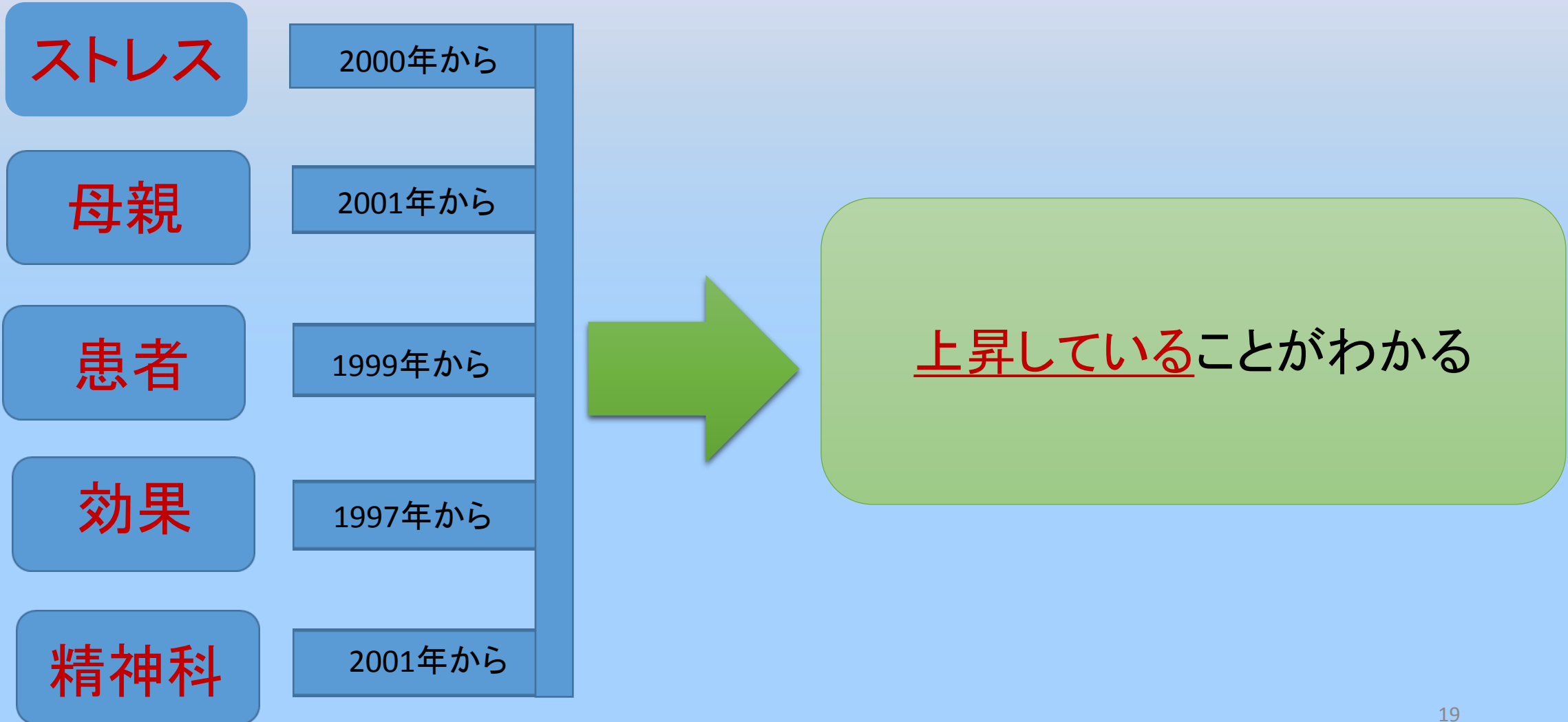


図3-3 上位5係り受けの年度別推移

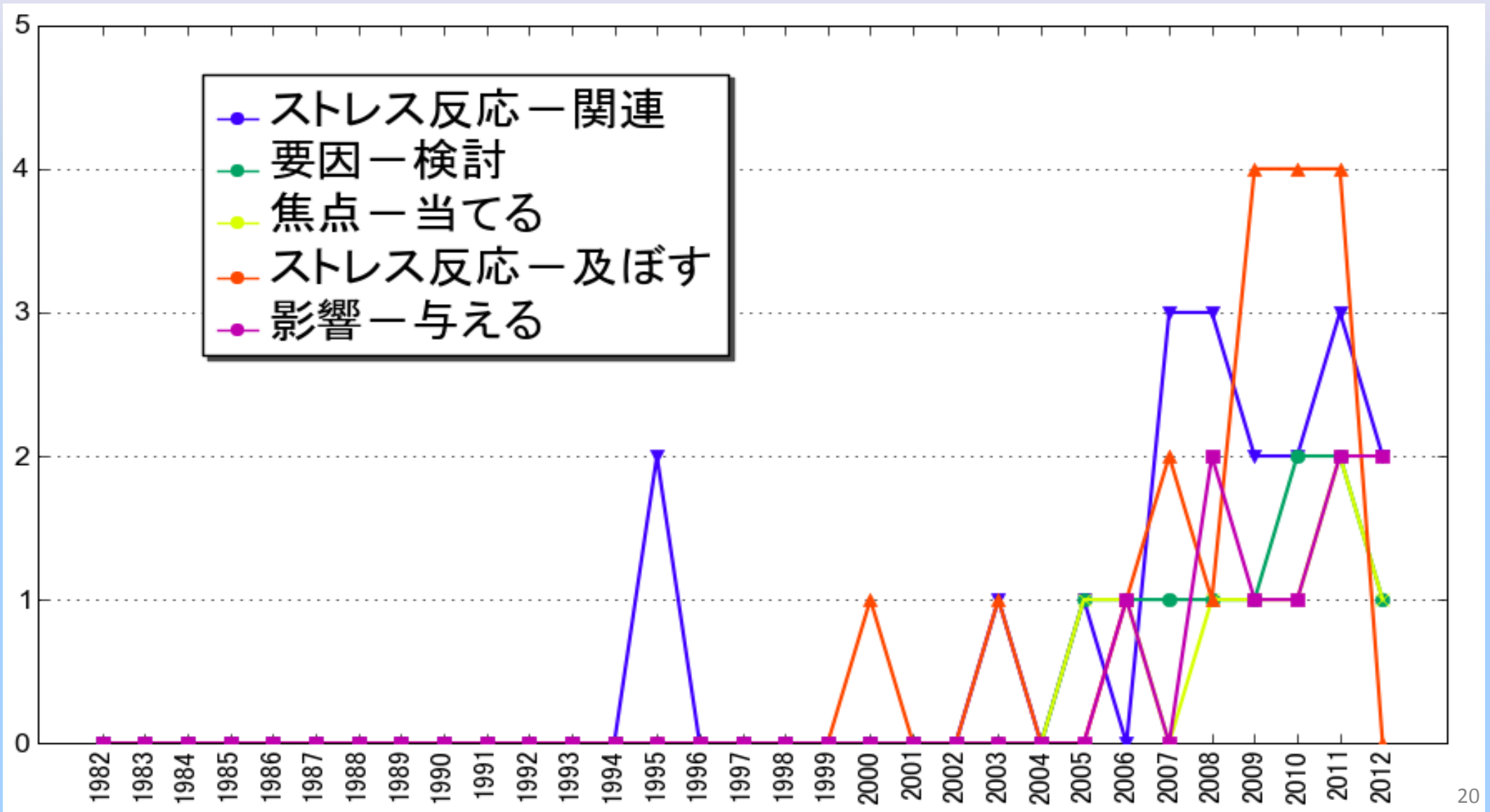
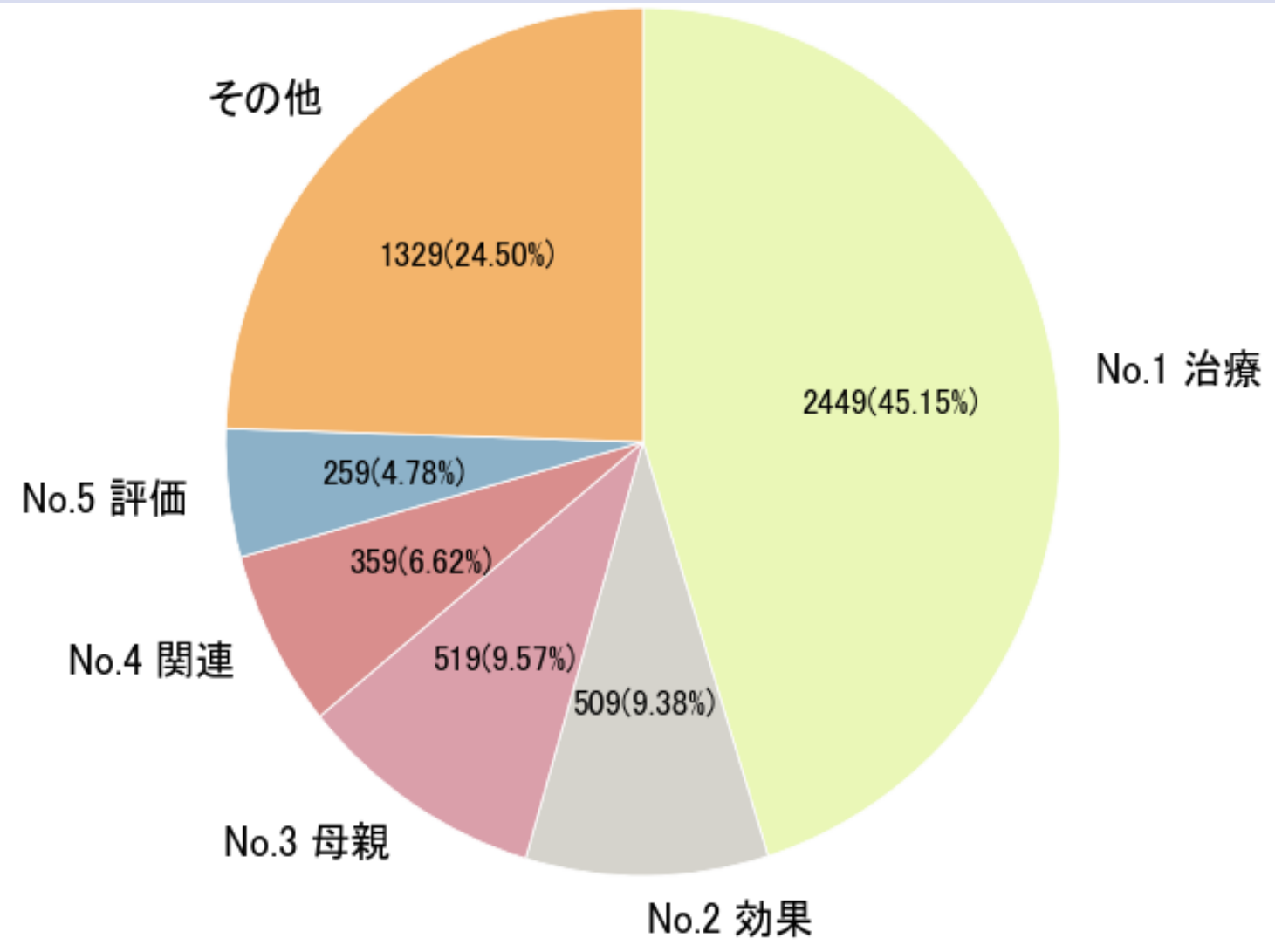


図3-3 上位5係り受けの年度別推移 結果

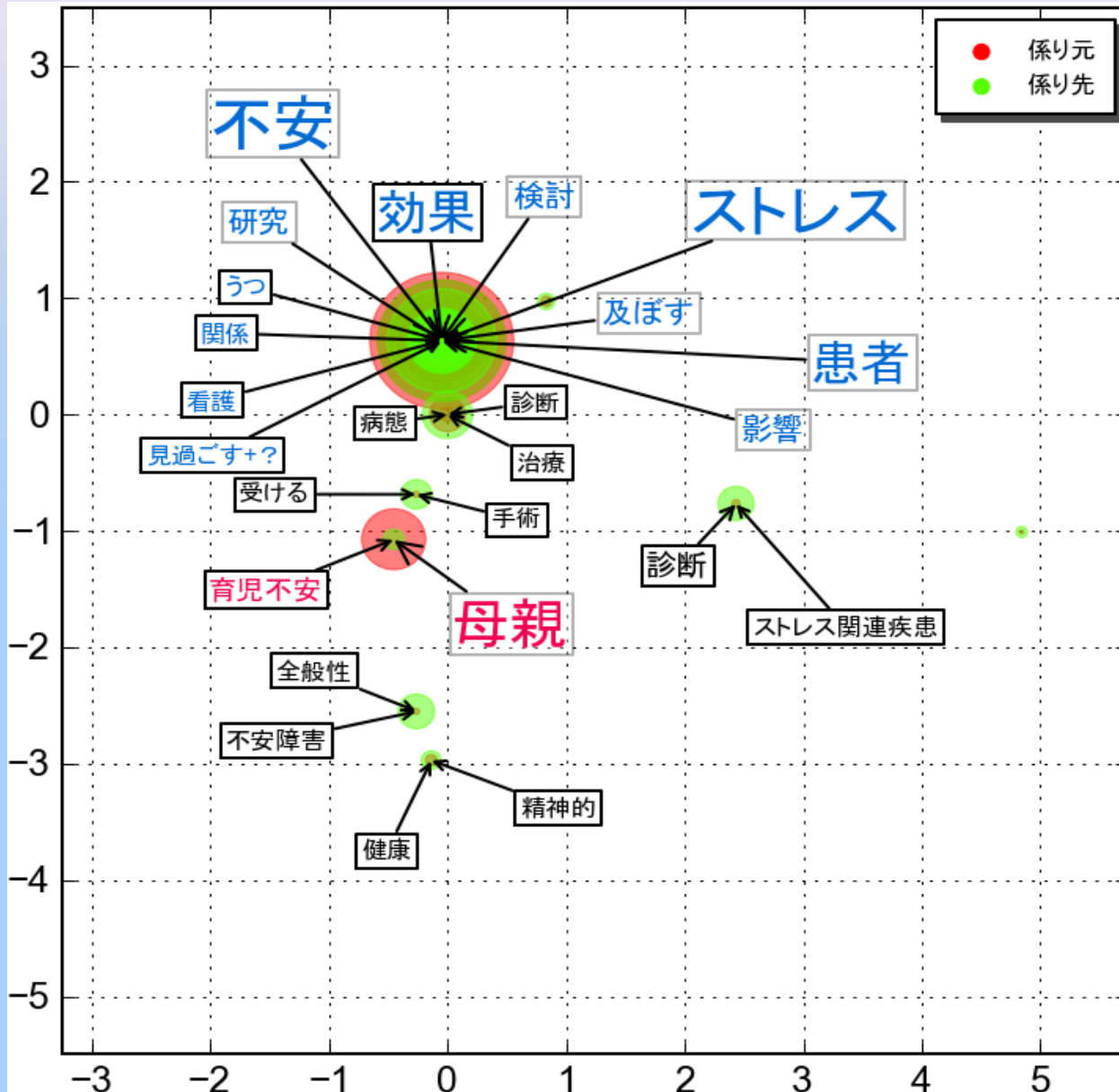
- 抽出条件を上昇傾向にある係り受けに絞り分析する。
- ①「ストレス反応－関連」が1994～1995年に一時増え、2006年から上昇傾向になっている。
- ②「要因－検討」が2005年から上昇している。
- ③「焦点－当てる」が2004年から上昇している。
- ④「ストレス反応－及ぼす」が2006年から2011年まで上昇している。
- ⑤「影響－与える」が2006年から上昇傾向になっていることがわかる。

図3-4 話題分析の文章分類と結果



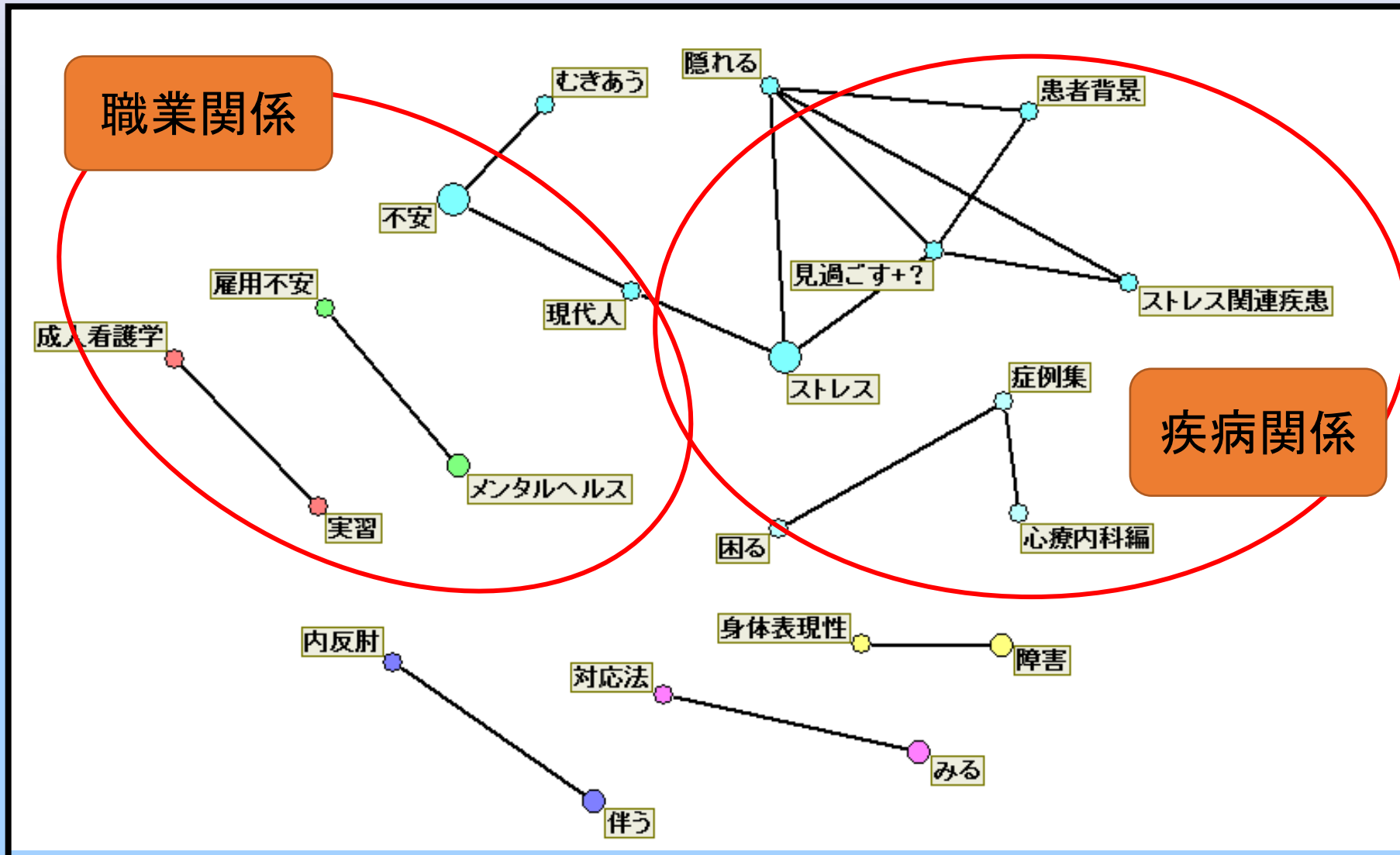
- 頻度の上位を200単語にして分析した。抽出された結果から「不安」、「ストレス」を含む頻度上位4単語を用いない分析をしたところ、上から順に「治療」、「効果」、「母親」、「関連」、「評価」が話題になっていることがわかった。

図3-5 対応バブル分析



- 抽出条件を上位30頻度以上に設定し対応バブル分析をしたところ、「母親」と「患者」を対象としている研究が多くあることがわかった。しかし、「職業関係」を対象としたものがほとんどないことが伺える。

図3-6 ことばネットワーク



考察①—結果のまとめ—

- 今回の分析では、全体的に疾病関係からくる不安や医療関係からくるストレスなどが多く見られた。これは、対象に選んだのが医中誌データベースで、医療関係の論文が多くあることが理由の一つとして挙げられる。

考察②

—特徴的なキーワード別の検証—

•「母親」

単語頻度解析や、対応バブル分析、話題分析の文章分類などで「母親」という単語が抽出された。原文では「双子の母親の育児ストレスに関する研究—乳児期の双子育児をする母親の体験から」や、「母親における育児不安と育児主訴及び保健福祉サービスの利用との関連」のように、「母親」が育児ストレスや、育児不安を抱えることに着目した研究が増えてきていることが明らかになった。

考察 ③

—特徴的なキーワード別の検証—

- 「精神科」

単語頻度解析や、上位5単語頻度年度推移分析などで「精神科」という単語が抽出された。原文では、「患者の自殺・自殺企図に直面した精神科看護師の心的ストレス反応とその経過に関する研究」や、「精神科新人看護師のストレス対策の検討」のように、「精神科」に勤務する看護師のストレスや不安を研究する論文など、「精神科」そのものに焦点が当てられる研究が見られた。

おわりに

- テキストマイニングにより、不安とストレスを取り扱った研究における特徴的なキーワードを明らかにすることで最近の不安とストレスの研究の流れを掴めた。
- 最近の研究の流れとして、「母親」や「精神科」にアプローチをかけるものが増加傾向にあることが明らかになった。
- 研究の限界として、今回用いたのは医中誌データベースだったこともあり、全体として医療関係に関する研究に偏った可能性がある。今後、Ciniiなどの他のデータベースを用いて分析することで、偏りを減らしていくことができるであろう。

参考文献

- 厚生労働省 統計情報・白書 平成22年国民生活基礎調査の概況
<http://www.mhlw.go.jp/toukei/saikin/hw/k-tyosa/k-tyosa10/3-3.html>
- 総務省 情報通信統計データベース 情報通信白書平成23年度版
<http://www.soumu.go.jp/johotsusintokei/whitepaper/h23.html>
- 村上 淳子, 中新 美保子, 鈴井 江三子 2012
川崎医療福祉学会誌, 22巻1号, Page79-86
- 西地 令子, 田中 千絵, 今村 桃子 2013
聖マリア学院大学紀要, 4巻, Page41-48
- 折山 早苗, 渡邊 久美 2009
日本看護科学会誌, 29巻3号, Page60-67
- 井上 セツ子, 木村 幸生, 井上 雄二, 井上 誠, 入江 麻樹 2011
日本精神科看護学会誌, 54巻2号, Page151-155